

令和7年度

講評と対策

入学試験問題



四天王寺中学校

国語

問題内容

配点

出題の意図

一『わからない世界と向き合うために』
中屋敷均著(筑摩書房)

50点

「ブフネラ」と「アリマキ」の例を通して生物が他の生物に「依存」することにより世界が開かれよりよいものとなるという主旨を読み取る。

二『ぐるぐる、和菓子』
太田忠司著(ポプラ社)

40点

会話を通じてそれぞれの登場人物のお菓子作りに対する複雑な心情を読み取る。

三『スラムダンクな友情論』
齋藤孝著(文藝春秋)

30点

船越と佐藤の二人の芸術家の交流を通じて、ともに高め合う「クリエイティブ」な関係であることをつかむ。

各問題講評

【書き取りについて】

●よくできていたが、文脈を考えて書いてほしい。

【二】問1(正答率80%)
「達」の誤答が多い。

【三】問1(正答率85%)
読み間違えたのか「定型」が多い。同音異義語にも注意する。

【文の構成】

●指示語や傍線部の前後に注意して、文脈をしっかり理解してほしい。

【二】問2(正答率90%)
ⅢとⅣを逆、ⅡとⅢを逆にするのがみられた。誰の発言かを雑に捉えている。
問7(正答率20%)
⑤ウが多く⑦は誤答が少なかった。⑤の直前「怪訝そう」の意味がわからなかったかもしれない。

問8(正答率50%)
誤答アが多い。直後に「否定の言葉」とあるので、直前の「(後悔を)少しでも小さくすることができる」を否定する内容を選ぶ。

【三】問5(正答率90%)
よくできていた。「不自由な左手」で書かれた「字」であることを考える。

【ことばの問題】

●語彙の正確な意味をしっかりと身につけてほしい。文を読むときに普段使わない語彙も調べる習慣を心がけよう。

【一】問1

X「たわいもない」(正答率30%)「ウ」の誤答が多い。文の流れで正解になりそうな語句を選んでいる。正確な語彙力が求められる。Y「お茶をにごす」(正答率90%)慣用表現はよくできていた。

【三】問2(正答率40%)
X「へらず」「口」を切り離して考えているような誤答が多い。Y「心」が誤答として多い。「体の一部」という指示の見逃しか、「心」を体の一部と捉えてしまっているようだ。

【抜き出し問題】

●具体例や言い換え表現に着目してほしい。誤字脱字のないようにぬきだすこと。

【一】問3(正答率70%)
後半部分の「あのおじさんはそういうことをいいたかったのだらう」という箇所がある段落から抜き出す。

問7(1)①(正答率70%)
本文では人間は「他の生物に【依存】している」とあり、次段落で「私たち」は「牛や豚やニワトリに迷惑をかけながら生きている」とある。

問7(1)②(正答率15%)
答えを見つけられずに空欄になっていた。

問7(2)(正答率20%)
ネガティブな意味合いを書くことをつかめていなかった。

問7(3)③(正答率5%)
④(正答率15%)
空欄が目立った。「依存先」が「限定」されるということは「世界を開いた」「完全な世界」であるということ。「複数」あるということはその逆を考える。

問7(4)(正答率20%)
「依存」のネガティブな意味合いとして「他のものに頼る」ことが書かれている。その逆であるから、「お互いに頼る」ことを読み取る。

【二】問4(正答率85%)
その後の郁美のセリフに「そういう覚悟」とあるので見つけるのは容易。

問5(1)(正答率40%)
「顔色が変わっている」の「様子」を説明するのだから「顔」の様子を探す。「何度も後悔」という誤答が多い。

問9(正答率70%)
行動の主体は郁美。従って郁美の行動で、戸惑っている様子を抜き出す。

【三】問4(正答率50%)

空欄が目立った。お互い「刺激」しあえる関係ということなので、冒頭の「ともに高め合う」関係のことを書く。

問7(正答率30%)

設問の「船越にとって」という部分を見落とし、「船越」側から見た内容になっていないのが見受けられた。

【客観問題(選択肢)】

●キーワードをつかみ、解答要素を選ぶ。

【一】問6(正答率65%)
「迷惑」をかけない「完璧な世界」の「欠点」を本文から読み取る。

【二】問5(2)(正答率80%)よくできていた。この後のセリフでの「後悔」という要素をつかむこと。
問10(正答率75%)誤答アが多い。全体的には正答率も高く、話の流れはつかめていた。

【三】問3(正答率70%)

よくできていた。傍線部の段落からこの二人の関係をつかむ。

問6(正答率60%)
傍線部の前に「船越」に「さげないやさしさ」を感じている、とある。

問8(正答率60%)
よくできていたが、「クリエイティブ」=「芸術家」と結びつけたためか「イ」を選んだ人が多かった。

【記述問題】

●傍線部をしっかりと読み取り、何を問われているかを正しく理解して解答してほしい。また主語と述語の関係をおさえた上で、必要なことばを選んで書いてください。決して本文をそのままぬき出して解答しないこと。

【一】問4(正答率50%)

「ブフネラ」の生態の変化を傍線部よりあとの2段落から読み取り、まとめる。「独立した生物として認められない」という要素が抜けることが多い。

問5(正答率30%)
前提として「人間」について言及していることをつかむ。「人間」と「ブフネラ」の共通点として傍線部の段落後半に「他の生物に依存している」と明記されている。

【二】問3(正答率40%)「きまづい」心情をおきかえただけのものが多く見られた。昨日の出来事をまとめること。記述では主語の取り違えが見られた。人間関係を正しく把握し、助詞まで丁寧に記述すること。

問6(正答率55%)誤答として「なくさせる」「はげさせる」あり。挑戦を促しているのだから「なくさめ」は違う。「はげさせる」は日本語として正しくない。

次年度入試 アドバイス

出題傾向はここ数年大きく変わっていません。大学入試を見据え、長文の小説や現代社会の問題に関わる文章を出題しています。小学生の話し言葉にはない少し古い文章語や、抽象的な概念を表すことばを用いた文章に慣れることが必要です。普段から小学生でも読める評論(例えば岩波ジュニア・ちくまプリマー・ブルーバックスなどの新書)、文学的な小説などを意識して読み、表現力を身に付けてください。

また次年度に続き、生徒の会話文、資料文を組み合わせる思考する問題を出題しました。本文のキーワードをしっかりとつかみ、横断的に理解することが求められます。筆者の主張を正確につかめるように読む練習をしましょう。またその結果読む量は増えたので、早く読み、的確に論旨をつかむ力が必要です。正しく解くためには小説、評論のジャンルにかかわらず、問題本文はもちろんですが、設問の読み取りは大切で、語彙力の有無は大きく作用します。求められていること(何が何にたとえられているか等)を限られた時間内に答えることを意識し、時間をはかって解答する練習をしてください。傍線部周辺を参考にして、とりあえず解答を作成していくのではなく、文章を確実に理解しキーワード・キーセンテンスを用いて記述問題に取り組み、練習することで書く力が身につきます。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 【地理分野】 日本の経済が活発な地域	22点	日本の経済拠点が集中している地域の理解を通じて、日本の工業の特色を理解しているかについて問うた。
2 【歴史分野】 原始・古代～江戸時代	18点	原始・古代から江戸時代の政治・外交・文化に関する知識・理解を問うた。
3 【歴史分野】 幕末～現代	16点	明治から昭和時代の外交・政治・文化に関する知識・理解を問うた。
4 【公民分野】 時事問題など	22点	2024年の1～9月までの日本や世界で起こったニュースをとりあげ、社会的な事象に関心をもっているかを問うた。特に各国で首脳の交代が多い年だったことを念頭に作成した。

各問題講評（具体的に）

- 地名（半島名や県庁所在地名）など基礎的な知識を問う問題も、統計データから特色を判別する問題も全般的には正答率は高かった。しかし、製鉄所のある都市の分布を問う問題は正答率が低かった。個別の都市を暗記していても、全体的な分布を理解していなかったためと推定される。このように、基礎的な知識にどれだけ+αできるかで点差がついた印象がある。
- 全体的に得点率は高かったが、時期に関する知識にばらつきが見られた。歴史事象の時期も意識して学んでほしいと思う。また、歴史事象を単語としては覚えているが、その内容を正確にとらえられていないと思われる間違いも見られた。大問2の問7の誤答としてアが多かったことがその例で、楽市・楽座という単語は知っているが、意味をしっかりと理解していないと思われる。論述問題もよくできていたが、御恩と奉公の意味を逆にしていたり、問題文にある奉公を「奉行」としているものが散見された。
- 全体的に得点率は非常に高かったが、単語は知っていてもその意味をしっかりと理解していないと思われる解答が見られた。時期区分を判断する問題は正答率がやや下がった。大問3の問7の誤答としてウが多かった。韓国併合（1910）の時期判断が受験生には難しかったと思われる。
- 正答率は高く、全問正解の受験生も多いた。しかし、宇宙航空研究開発機構の略称を答える問題の正答率がとても低かった。政治・経済分野だけではなく、さまざまな分野への関心を持ちましょう。なお、本年度の出題テーマの各国の首脳の交代については、十分に学習できていたと思う。

次年度入試 アドバイス

1【地理分野】

単純に地理用語を暗記するだけでなく、その内容や背景を説明できるように理解してください。教科書や地図帳に載っているグラフや表も数字を暗記するだけでなく、そのデータの中にどのような特徴があり、どのような事柄が読み取れるかを考える習慣をつけてください。地図の読図は地名を暗記する際にも必要ですが、様々な事柄の分布をみる時にも必要になります。

2【歴史分野】

時期・内容・因果関係を把握することを意識しながら、歴史用語の理解に取り組んでください。歴史用語が正確な漢字で書けることも、基本として必要とされることだと思ってください。教科書等に掲載されている写真や表などの資料にも積極的に触れて、歴史の多面的な理解につとめましょう。文化や経済分野の学習にも、しっかりと取り組んでおいてください。

3【公民分野】

時事問題の学習が大変だと思いますが、入試の直前にまとめるのではなく、日々気になったニュースを記載するノートを作りましょう。その際、政治分野、経済分野、国際分野、科学分野などに整理すると、入試前の復習ノートになります。さらに、背景にあるものや影響まで関心をもってください。その際には、なるべく偏見を持たずに、多様な考えを持ってとらえる姿勢を持って欲しいと思います。

4【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習してもらいたい。その際には資料の読み取りや文章を読み内容を把握できる「読解力」が大切である。読んで丸暗記するだけでなく、考える習慣を持てほしい。

また、社会の出来事に広く関心をもつことや、「なぜそのようなことが起こったのか」、「それによって、社会にどのような影響を与えたのか」という観点からも「暗記ではなく考える習慣」を身につけることは大切である。その上で、できればそれに対する自分の考えを持ち表現できるようになればベストであろう。また、漢字などのミスに気をつけてください。

算数

問題内容

配点

(120点満点中)

出題の意図

1. 計算小問2問	14点	四則混合の基本計算が正確にできるか。
2. 文章題(食塩水の濃度)	14点	基本的な文章題が解けるか。
3. 文章題(通過算)	18点	記号の意味を理解し場合の数を求めることができるか。
4. 文章題(公倍数の問題)	18点	問題の条件をていねいに扱い倍数の特徴を理解できるか。
5. 平面図形(面積)	7点	面積の計算が正確にできるか。
6. 文章題(規則性の問題)	18点	問題文に示された計算の仕組みを理解し、利用できるか。
7. 文章題(論理と推測の問題)	13点	円錐が通過してできる立体の形がわかるか。その体積が計算できるか。
8. 立体(切断の問題)	18点	

各問題講評

正答率(概算)

- ①65% ②90%
- ①90% ②65% ③65%
- ①70% ②50% ③15%
- ①90% ②60% ③15%
- 5.60%
- ①90% ②60% ③40%
- ①90% ②40% ③10%

【講評】

- ①②は基本の計算です。②は、よくできていました。①については、157や0.628や94.2が3.14で割りられることに着目して解く問題でした。
- 食塩水の問題です。①は、よくできていました。②、③は①に比べるとやや正答率が下がっていますが、それぞれのビーカーの食塩の量に着目し、それぞれの容器から取り出した食塩水に含まれている食塩の量をていねいに計算すれば答にたどり着きます。元のビーカーの濃度から考えると考えられないような答も見られました。典型問題なので、早く正確に解けるようにしておきましょう。
- 通過算の問題です。①は比較的良好に出ていました。列車が向かいあっていることを考えて、1秒につき40mずつ近づいている事を考えれば、簡単に答が求まる問題でした。②は、列車の長さやふみきりの長さを考えずに求めたと思われる間違いが見られました。③は、上り列車と下り列車の動きについて、ていねいな図をかくことが大切ですが、難しいと感じた受験生が多かったようです。
- 整数の問題です。
 - 13と17の最小公倍数を求めて2024に足す問題で、よくできていました。
 - 2126年の間違いが多かったです。問題文をよく読みましょう。
 - ②がポイントになっています。3年連続で発生する順番として考えられるのは、「セミA、13年ゼミ、17年ゼミ」、「13年ゼミ、17年ゼミ、セミA」、「セミA、17年ゼミ、13年ゼミ」、「17年ゼミ、13年ゼミ、セミA」、「13年ゼミ、セミA、17年ゼミ」、「17年ゼミ、セミA、13年ゼミ」の6パターンです。この中で問題の条件に合う組合せをみつけ、最大公約数を考えます。
- ひもの端が移動できる範囲を求める面積の問題です。おうぎ形の面積の和でしたが、3種類の半径の長さに対する中心角をていねいに見て計算すれば、難しい問題ではないと思います。3.14をかけた答の間違いが見られました。問題文をよく見ましょう。
- 素因数分解を用いずに、大きい2つの数の最大公約数を求めることをテーマとした問題です。①は問題文の計算のルールの理解の確認です。注意して読み間違えなく解くことができていた受験生が多かったです。②は2回の操作でこのルールの計算を終える場合が、次の(i)(ii)の2通りあることに注意して考えることができて正解にたどり着くことができます。求める数を○として、計算ルールにそって式で表すと
 - 2025-○=△(○>△)で○-△=△となる場合
 - 2025-○=△(○<△)で△-○=○となる場合○=△の場合は1回の操作で終わって不適切です。③は与えられた2つの数の最大公約数が最も大きくなる2数の組を選ぶ問題です。2つの数にこの

ルールの計算をして最後に出てくる数が、この2数の最大公約数となることを見抜く問題です。正解率については②よりも③の方が高かったです。これは、分母と分子がともに大きい整数の分の約分をするときに、この計算法を利用していることに気づく受験生が多かったと考えられます。

- 論理と推測の問題です。ケーキを食べた人はウソをつき、食べてなかった人は本当のことを言うということを頭に入れながら発言が正しいかどうかを一つずつ推測しながら、各発言の矛盾を調べていけば答の候補は限定されていきます。②は①で用いた考えを用いて落ち着いてじっくりと調べていくことが大切になるので普段から思考力を養っていく事が大切となります。
- 立方体の切断の問題です。
 - ①と②は、よく出題される内容なので、確実に得点できるように。特に①はよくできていました。
 - ③は、2つの切断面の交わる線PFを図にしっかり描き入ると様子が分かりやすくなると思います。あとは①の図形から②の切断面で切り落とす部分の体積を求めれば、正しい答にたどり着きます。そのとき、②の切断面と辺BCの延長線の交点をTとし、三角すいPQFTの体積から三角すいRCSTの体積を引けば答は求めやすいです。

次年度入試 アドバイス

計算力はすべての問題の基本ですから、早く正確にできるようによく練習しておきましょう。また、全体をながめ計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心掛けて取り組んでおいてください。

計算問題や小問集合、大問の①②は基礎的な問題が多いので、日頃から数多く基礎を練習し、素早くそして確実に正解できるようにしておきましょう。

後半の大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができません。問題文をしっかり読んで内容を十分に理解した上で、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフ・ダイヤグラムを作って利用するなど、その場で解法の糸口を見出せるよう、ふだんから思考力と試行力を養っておいってください。

平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、折り返したり、対称性を利用したりといった特徴を活用できる目を養うことが大切です。

立体については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で立体が考えられるようにしたいものですが、複雑な場合は断面図や展開図を描いて視覚化する練習もしましょう。

本校の過去の問題を見ればわかるように、難問・奇問(特に、小学校の学習指導要領の内容を超える分野)ばかりを練習する必要はありません。標準レベルの問題を自分で十分に理解、納得して解くという勉強の姿勢が大切です。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1	(地学分野) 月・惑星・太陽の見え方	20点	地球・月・太陽・惑星の位置関係から、月や惑星や太陽の見え方を問うた。また、記述問題では、考えを正しく言語化できる力を試した。
2	(化学分野) 気体の性質と量関係	20点	気体の性質に関する知識および気体の体積と温度、圧力の関係について、データをもとに考察する力を試した。
3	(生物分野) 哺乳類の誕生・動物の行動	20点	哺乳類の子の誕生・動物の行動を題材に、文章や表からデータを読み取る力を問うた。また、目的を理解して実験の計画をたてる力を試した。
4	(物理分野) 運動と力・光の屈折	20点	物体に働く力と運動の関係について、問題文から法則を読み取り理解し運用する力を問うた。また、光の屈折について、データを読み取り現象を解釈する力を試した。

各問題講評

- (1)(2)の月の見え方について、地球・月・太陽との位置関係を、自分で図示する等、正しくイメージし、地球の北半球と南半球の見え方を比較することができなかったのか、南半球での月の見え方の正答率が低かった。(3)の作図では、地球の自転により月が動いて見えることと、約1ヶ月で月が地球の周りを回っていることにより満ち欠けがおこることを混乱している受験生が多いように感じた。(6)の記述問題では正答率が低く、考え方が正しくても、それを正しく言語化できていない解答が多く見られた。主語が以降の文章に対応していなかったり、対比ができていなかったり、説明があいまいであったりで、大幅に減点となることが多かった。
- (1)～(3)の基本的な問題はよくできていた。(4)のグラフはデータで指示された点は正しく表せているが、適切な線(緩やかな曲線)で結ばれていない解答が多く、減点した。関連する(5)の正答率が高かったことから、計算の結果と与えられたデータがどのようにつながっているのかについての想像力が足りないことが気になった。(6)は(2)～(5)をもとに、気体の体積が温度、圧力とどのような関係があるのかを考える問いであったが、正答率は5割程度であった。(7)は与えられたデータから気体の質量と体積、圧力の間を組み合わせる必要がある応用力を試す問いで、正答率が低かった。
- (1)は胎盤と答えるべきところを、へその緒と答えている人が多かった。体の部位の名前だけを覚えるのではなく、はたらきと合わせて正しく理解してほしい。(3)について、問題文や会話の中のヒントをふまえて解答できていない人が多いため、問題文や表を読み取る力を日頃からつけていきたい。(4)(5)の標識再捕法について、生息数を正しく求められている人は多いが、目印が適切なものでない場合にどのような影響がでるかをイメージしきれていない解答が目立った。
- (4)(5)のように単純な用語や実験手法等を一問一答のように答える問題は正答率が高く、しっかり学習し知識の豊富な受験生が多かったことが想像される。その一方、提示された法則を理解し運用する力、実験データや現象の観察結果から思考、考察を進め、次の結果を予測する力はまだ十分培われているとは言い難い状態であるという印象を受けた。個々の知識を習得していることはもちろん大切ではあるが、単純な暗記に終わらせるのではなく、応用、活用のできる「生きた知識」とすること、文章を的確に読んで理解できる高い読解力を培うことを心掛けてほしい。

次年度入試 アドバイス

例年、実験・実習・観察に関する内容や、身の回りの科学現象について考える内容を出題している。また、図や表の読み解き、グラフ描画、記述問題も必ず出題しており、これらの問題で差がつきやすい。知識は基礎的なもので十分だが、問題文や設問の情報を整理し、論理的に筋道を立てて考える力を培ってほしい。

- ・実験や観察、身近な科学現象などについて、日頃からそのしくみの理解に努める。
- ・答えとして何が求められているか、指示を読み飛ばさずにつかむ。
- ・基本的な計算力をつけ、定番問題の計算は算出過程と根拠を大切にしながら演習する。
- ・用語は漢字で正確に、文章は内容が伝わるように意識して書くようにする。
- ・問題量、文章量が多いので、文章を素早く正確に読み取り、内容を正しく理解する力をつけ、グラフや図、表の読み取りや描画を素早くできるように練習する。